

〈授業報告〉

キャンパスの植物名板の扱い方についての一考察

横井一之*

はじめに

本学名古屋キャンパスの正門を入ると、本館入口へ続く通路の右側に街路樹が5本並ぶ。名前が示された植物名板を読むと「ハナミズキ」である。ここ2、3年この植物名板が気になるようになってきた。玄関の改築で移植された樹木もある。もともと、2、3種類の植物名板があり、その表記に差異があった。

最終的には、これらの植物名板の不統一をどうするかまで考えられたらと思うが、少し調べると難しいことがわかった。では、植物名板の現状を把握し、大学キャンパスや幼稚園・保育園の園庭での植物名板をどのように扱えばよいかをここにまとめる。

2023年度上半期、植物学者「牧野富太郎」の自叙伝的な話がNHK朝の連続ドラマ「らんまん」で取り上げられた。その中で植物標本を整え、植物名、和名、学名をプライドをもち記入する牧野博士の姿があった。しばらく手をつけられなかった課題に取り組むことができたのは、この牧野博士の真摯な姿に背中を強く押されたからである。

1. キャンパスの植物名板の現状

(1) 専門演習 I における植物名板の調査

まずは、名古屋キャンパスにある植物名板を以下のように調査することにした。

- ①調査日 2023年6月21日(水) 3限 専門演習 I 授業内
- ②調査場所 名古屋キャンパス 1号館付近の学内



図1 調査中の学生



図2 ①サイズで解説なし

* 東海学園大学教育学部教授

- ③調査員 専門演習 I 受講生 7 名
- ④調査内容 どんな植物名板があり、何が記述されているか

(2) 調査結果

調査の結果、植物名板にはつぎの3つのサイズがあり、キャンパス内に混在していることが分かった。

- ①白のプラスチック板で、縦 140mm、横 200mm、厚さ 3mm (横書き)
- ②白のプラスチック板で、縦 200mm、横 100mm、厚さ 3mm (縦書き)
- ③白のプラスチック板で、縦 250mm、横 120mm、厚さ 3mm (縦書き)

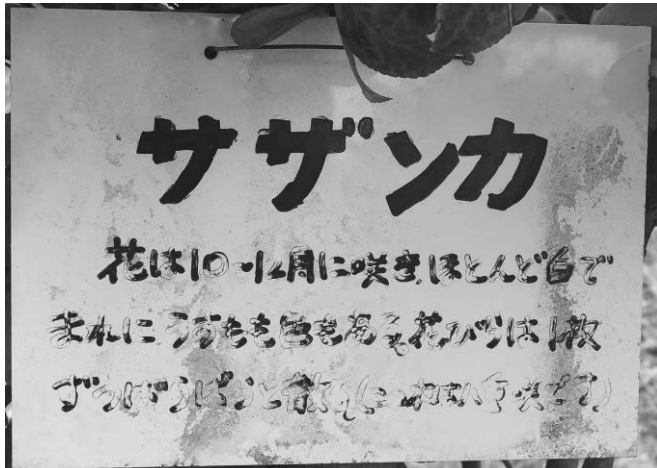


図3 ①サイズの解説あり



図4 ②サイズ



図5 ③サイズ

①サイズの植物名板は、図3と別のもので、2つのタイプがあることがわかった。別のもとは、大きな文字で植物名のみが油性マジックで書かれているもので、図は、さらに下半分に少し小さい文字で、その植物の解説が加えられているものである。図3は、もともと下部に解説があったが、経年のため消えてしまったのかもしれない。

図4は②サイズの植物名板で、縦に2列に大きな文字で植物名、科名がペイントで太く書かれている。図5は、③サイズの植物名板で、寄贈した財団が添えて下さったものである。植物名、寄贈した財団名、期日がペイントで書かれている。文字は、専門家によるものだと考えられるが、ペイントのみで刻字まではしてない。

(3) キャンパスの植物一覧

この調査で、学生がまとめた植物の一覧は以下の表1のようである。

表1 キャンパス内植物名板一覧 (2023年6月21日)

番号	記録者数	植物名	備考
1	2	アベリヤ	
2	2	イロハカエデ	(読めない)
3	2	エゴノキ	
4	2	オオムラサキ	ツツジ科で開花時期は4~5月で、庭や公園に植えられて...
5	2	カナメモチ	
6	2	キンモクセイ	
7	1	クスノキ	
8	1	クチナシ	
9	2	クロガネモチ	(読めない)
10	3	クロマツ	
11	1	ケヤキ	
12	1	コナラ	(読めない)
13	1	サクラ	
14	1	サザンカ	花は10~12月に咲き、ほとんど白で、まれに...
15	1	シマトネリコ	
16	1	シャシャンボ	(読めない)
17	1	ソメイヨシノ	江戸時代にエドヒガンと...とつくられた...
18	2	ソヨゴ和洋どの庭にも使われる。
19	2	ツバキ	
20	2	トベラ	(読めない)
21	2	ノウゼンカズラ	(読めない)
22	3	ハナミズキ	
23	1	ヒラドツツジ	ツツジ科ツツジ目で、長崎県平戸市で自然...
24	1	マツノキ	
25	3	マテバシイ	(読めない)
26	1	メタセコイヤ	
27	3	ヤマナラシ	山地に生える落葉高木で、高さは5m内外になる。葉が風に揺れて、ぶつかい合い音を出すので、山鳴らしの名が付いた。
28	3	ヤマモモ	暖かい地方に生える常緑高木。実は6~7月に熟し美味。公害に強く都市でよく植えられる。雌雄があり、これは雌の木である。

2. 植物名板の指導の振り返り

植物名板がどうしてキャンパスに表示されているかを振り返った。かつて、本学で教鞭を取っていらっしやったS先生が、2009（平成21）年10月14日、28日の基礎演習Ⅳの授業で、学生に植物名板作成の指導をなさっている様子、また、学生と一緒に植物名板を見学なさっている様子の写真が残っている。

(1) 植物名板の見学

図6は、学生が指導者と一緒に、植物名板をキャンパスの樹木に設置してあるものを見学している様子である。2023年現在もこの場所に立っている「ケヤキ」の木である。写真は2週間後のものも残っており、2週間後にこの見学をした学生が植物名板を作成している様子が写っている。植物名板の作成動機をたかめるために、指導教員が授業の導入とし、観察を先に行ったものと考えられる。



図6 植物名板を見学するS先生と学生
(2009年10月14日)

(2) 植物名板製作（2009年10月28日）

図7は基礎演習Ⅳの授業で、学生が植物名板作製の指導を受けている様子である。

図8はその指導の過程で用いられた、植物名板の下書きの元である。

これらの写真を通して明瞭となり、図3「①サイズの解説あり」と同じ種類と思われる記述内容を以下の表2～表5に示す。



図7 植物名板の下書きを清書する

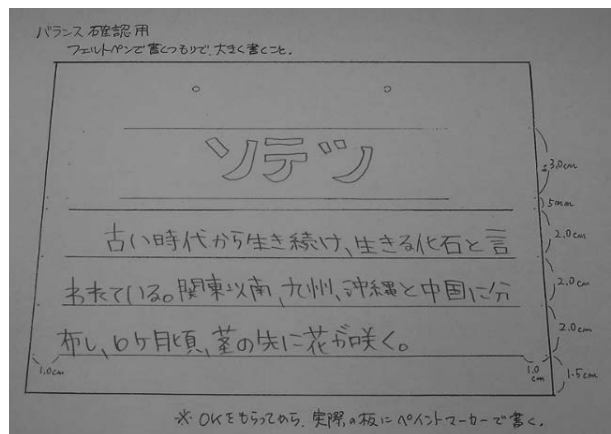


図8 植物名板の下書きの元

表2 キンモクセイ

<h2>キンモクセイ</h2> <p>常緑樹。丈夫で大気汚染に強く、刈り込んでも枯れないため庭木として用いられる。黄色の花をつける。</p>
--

表3 ソテツ

<h2>ソテツ</h2> <p>古い時代から生き続け、生きる化石と言われている。関東以南、九州、沖縄と中国に分布し、6月頃、茎の先に花が咲く。</p>

表4 ホルトノキ

<h2>ホルトノキ</h2> <p>西南日本で見られる常緑高木。紅葉した葉を一年中つけている。ホルトノキの実はオリーブの実に似ている。</p>

表5 メタセコイヤ

<h2>メタセコイヤ</h2> <p>1941年に絶滅したとされた「生きた化石」と呼ばれる木。公園樹などとして植えられた。見事な円錐形に育つ。</p>

3. 植物名板を求めて

前述2章のような写真が見つかり、キャンパスの植物名板の由来がかなりはっきりするが、現在の学生がこれらの資料を目にしたのは2023年夏休み後である。そこで、植物名板にはどのようなものがあり、本学のキャンパスにあるものも、もともとどんな様子だったのかの手がかりを求め、植物名板を具体的に見てみようということになった。動植物の名前が示されているところの代表として、名古屋市立東山動植物園が話題となった。

筆者は、東山動植物園は動物園として有名だと考えていた。そして、名札というか、名板は、動物用、植物用と分かれていると考えていた。そこは、何の先入観も持たない学生の方が両方を素直に捉えることができた。学生に、「東山動物園で見られる、主に植物名板を調べて、どんなことが記述されているか報告する」ように課題を課した。

(1) 東山動植物園見学について

- ①見学日時 2023年7月5日(水)3限、7月12日(水)3限
- ②見学目的 動物名板、植物名板の調査

(2) 東山動物園の名板調査の結果

以上のような目的で出かけようとしたが、学生にはそのようにきちんと目的を伝えたが、幼児が目指すのは動物園である。幼児を相手する保育者を目指す学生も動物園の方を好むだろうと考え、あえて植物園の方へは学生を誘導しなかった。

結果、筆者の記録写真を見ると、a. ワラビー、b. クマ、c. 白クマ、d. エミュー、e. キリン、f. コアラ、d. シャバーニ(ゴリラ)が残っている。また、7月12日は梅雨明けで、暑くなったので、ゴリラ舎に集合した後に、全員で東山スカイタワーに昇り、熱中症予防の意味もあり、涼んでから園内見学に向かった。

以下の表6は、当日学生が報告した名板（動物・植物混合）の一覧である。

表6 動物・植物名板（東山動物園 2023.07.12.）

通番	学生	名称	科目	簡単な説明
1	S7	アクシスジカ	シカ科	形態は年齢に関係なく斑斑がある (以下省略)
2	S4, S5	インドサイ	サイ科	鎧をまとったような身体で、被毛が変 (以下省略)
3	S2, S4	エゾヒグマ	クマ科	日本の陸上動物の中で1番大きく、 (以下省略)
4	S3, S4	エミュー	エミュー科	翼は退化して非常に小さく、緑色の (以下省略)
5	S7	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ科	世界最大の両生類で、全長が1mを (以下省略)
6	S3	コアラ	コアラ科	栄養価の低いユーカリを主食とし、 (以下省略)
7	S3, S4, S5	コツメカワウソ	イタチ科	小型のカワウソで全長は65~95cm (以下省略)
8	S1, S2, S6	シマトネリコ	モクセイ科	常緑高木。熱帯の山地に自生し樹 (以下省略)
9	S1	チャノキ	ツバキ科	葉が紅茶、緑茶などの原料になる。 (以下省略)
10	S6	ナンキンハゼ	トウダイグサ科	シラキ属。分布＝中国南部。秋には (以下省略)
11	S6	ニッケイ	クスノキ科	常緑高木。主に樹皮を乾燥させ、料 (以下省略)
12	S3, S5, S6	ネムノキ	マメ科	落葉高木。小葉が夜間に閉じる。花 (以下省略)
13	S1	フィリヤブラン	ユリ科	常緑多年草。8~10月頃。淡紫色の (以下省略)
14	S5	ベネットアカクビワラビー	カンガルー科	単独で生活することが多く、夜間行 (以下省略)
15	S1, S4	モミジバズカケノキ	スズカケノキ科	交雑種。葉がモミジに似る。樹皮が (以下省略)

表6を見ると、学生は動物を8種類（通番1～7、14）、植物を7種類取り上げた。事前に植物を取り上げるように伝えたが、動物でもよいと伝えてあった結果である。

4. 考察

本学名古屋キャンパスの植物名板について論じるにあたり、まず、キャンパスにどんな名板があるか調査した。その結果、表1のように28種類の植物名板があることを明らかにした。

次に、名古屋キャンパスの現存する植物名板の多くは、2009年にS先生の指導のもと学生が作成し、掲示したことを確認した。

どのような植物名板が考えられるか、東山動物園で掲示されている植物名板にそのモデルを求め学んだ。

村田浩一他（2014）によると、種の学名、種名は「属名+種小名+命名者」で構成するが、命名者を外し「属名+種小名」で表記するのが一般的という。この表し方を二名法という。例えば、表6の9番では、「チャノキ、ツバキ科」と表記してある。S先生の指導では、種小名のみを書いている。小学校で表示する場合、表2のように種小名「キンモクセイ」、説明「常緑樹。丈夫で大気汚染に強く、刈り込んでも枯れないため庭木として用いられる。黄色の花をつける。」のみで十分だと筆者は考える。

一方、幼稚園や保育所の指導では、植物を表示するのにどの程度の植物名板が必要だろうか。筆者は、文字指導との関連からも考慮して、幼稚園や保育所の指導では、種小名のみが表示してあれば十分であると考える。植物と植物名板を前にして、その名称を子どもに唱え、簡単な説明をすれば十分であろう。

図9は、本学キャンパスで見つけたタンポポに、画用紙を縦5.3cm×横11.5cmに切断し、割り箸を支柱とした簡易の植物名板である。草花の名称を示す場合は、この程度のもので十分である。保育者が、文字を読める子どもと一緒に名称を唱え、どんな花か、どんな草花かを説明して、それを用いて実際に遊ぶ。遊んだあとは簡易の植物名板も不要となろう。本論で主に取り上げた樹木は、小学校以前の子どもにはあまり馴染みがないことも加えておく。



図9 タンポポの植物名板 2024.06.20.

これに関して、佐藤秀文（2010）は、「保育者にとって、生き物の名前を覚えることの必要性」について述べている。佐藤の調査では、幼稚園新任教諭の認知度の高い植物10位は、ネコジャラシ、クローバー、イチヨウ、ススキ、ツバキ、クリ、ツツジ、オシロイバナ、ドクダミ、セイヨウタンポポである。木本のイチヨウ、ツバキ、クリ、ツツジの4種については、1章で取り上げた樹脂の植物名板を作成して針金で樹木にくくり付けることは可能だろう。他の草本、いわゆる草花は筆者が唱えた画用紙と箸で作った簡易の植物名板で十分である。

さて、名古屋キャンパス内に現存する植物名板、やや消えて、読みづらくなった名板をどうするかが課題であった。本学では、6月以降キャンパスの樹木が一斉に剪定される。そして、ふと気づくと落ちていた植物名板が樹木に針金で固定されている。針金で固定せず、樹木の近くに植物名板専用の台を設けて、その上に植物名板を取り付けたほうがよいという人もいる。

すでに述べたように、植物名板を取り付ける場合、その記述内容が必要十分かという問題がある。S先生が退職されて以後、その内容をチェックして、取り付け直しているのが庭師ということなる。残念ながら、樹木を同定する技術、知識を筆者はもっていない。どの程度の正確さを求めるかがポイントとなろう。関係の皆さんの今後のディスカッションを期待する。

【引用・参考文献】

佐藤英文（2010）「幼稚園新任教諭の植物知識に関する調査」『鶴見大学紀要』第3部 保育・歯科衛生
編 第47号：28-37.

平野隆久（2013）『よくわかる 樹木 大図鑑』永岡書店

村田浩一・成島悦雄・原久美子（2014）『動物園学入門』朝倉書店